



5回表 光星学院の逆転に盛り上がる生徒たち。29日午後、八戸市の光星学院高校

強豪と互角「よくやった」

センバツ 八戸から拍手喝采

「よくやった光星、胸を張って八戸に帰っておいで」。強豪・智弁和歌山を相手に互角の試合を展開、準々決勝進出まであと一歩だった光星学院。震災の復旧に励む地元・八戸市では、ナイフの爽やかな戦いぶりに、学友や市民から、惜しめない拍手が送られた。

「あー」。九回表、出を懸けた第2戦も、けに、試合終了まで声死、代打和田祥真選手が三振に倒れた瞬間から「甲子園に届けよう」とばかりに熱い声援を浴びた。上原を退けて、主将川上重平選手は「負けてしまっ

た。甲子園球場に連れて行ってほしい」と話していた。また、カンボジアからの留学生で、吹奏楽部員として演奏したタム・チエンターさん（1年）は「高校野球は日本に来て初めて知り、応援するうちに大好きになった。結果は残念だけど、選手たちにお疲れさまと声を掛けたい」と笑顔をお見せした。

同校の橋場保人副校長は「地元が被災した中での（野球に打ち込む。今日の結果は、選手に素晴らしい試合をやるかどうかという）手たちが日々泥にまみれ、精神的な負担は、試合練習してきた成果、てくれた」と健闘をたたえた。結果には関係ないと思、強豪・智弁和歌山を相手に

「お疲れさま」「よくやった」と大きな拍手が湧き起こった。初戦に続き、8強進出。この記事の動画は、ウエブ東奥と東奥NEテレビに掲載しています。

「被災者の励みに」市民

「光星学院、負けたが、作業の手は休めず頑張らなければならぬ。あに残念そうだが声を上げ、惜しかったね」。大津波による住宅被害の傷痕が生々しく残る八戸市市川町橋向地区で、高齢の両親が暮らす実家の片付けに励む同市河原木の女性（49）

た。甲子園球場に連れて行ってほしい」と話していた。また、カンボジアからの留学生で、吹奏楽部員として演奏したタム・チエンターさん（1年）は「高校野球は日本に来て初めて知り、応援するうちに大好きになった。結果は残念だけど、選手たちにお疲れさまと声を掛けたい」と笑顔をお見せした。同校の橋場保人副校長は「地元が被災した中での（野球に打ち込む。今日の結果は、選手に素晴らしい試合をやるかどうかという）手たちが日々泥にまみれ、精神的な負担は、試合練習してきた成果、てくれた」と健闘をたたえた。結果には関係ないと思、強豪・智弁和歌山を相手に

携帯動画
バケット灌
費が必要す